

9月13日 年間第 24 主日

あなたがたはどうなのか

マルコによる福音書 8 章 27～35 節

²⁷ イエスは、弟子たちとフィリポ・カイサリア地方の方々の村にお出かけになった。その途中、弟子たちに、「人々は、わたしのことを何者だと言っているか」と言われた。²⁸ 弟子たちは言った。「『洗礼者ヨハネだ』と言っています。ほかに、『エリヤだ』と言う人も、『預言者の一人だ』と言う人もいます。」²⁹ そこでイエスがお尋ねになった。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」ペトロが答えた。「あなたは、メシアです。」³⁰ するとイエスは、御自分のことをだれにも話さないようにと弟子たちを戒められた。

³¹ それからイエスは、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちから排斥されて殺され、三日の後に復活することになっている、と弟子たちに教え始められた。³² しかも、そのことをはっきりとお話しになった。すると、ペトロはイエスをわきへお連れして、いさめ始めた。³³ イエスは振り返って、弟子たちを見ながら、ペトロを叱って言われた。「サタン、引き下がれ。あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている。」³⁴ それから、群衆を弟子たちと共に呼び寄せて言われた。「わたしの後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。³⁵ 自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのため、また福音のために命を失う者は、それを救うのである。

他の朗読：イザヤ 50:5～9 詩編 116:1～6,8,9 ヤコブ 2:14～18

Lectio …読む

イエスは何者なのか、といううわさで持ちきりになっています。イエスは弟子たちに、人々は自分が誰であると思っているか、と尋ねます。多くの人々は、旧約聖書の預言者たちの一人、特にエリヤかもしれないと思っています。あるいは、イエスは洗礼者ヨハネであるかも知れないと思う人さえいたようです。

イエスは弟子たちに、自分たちはイエスのことを誰だと思っているのか、と尋ねます。ペトロは、イエスはメシアである、と言います。しかしこのことを完全には理解していません。この時点でイエスは、弟子たちだけがイエスの正体を知っているように望んでおられたので、このことを他の誰にも言わないように弟子たちに命令します。

それからイエスは、ご自分の地上での宣教がどのように終わるのか、という洞察を弟子たちに与えます。イエスは、自分は苦しんで死ぬが三日後に死から復活するであろう、と弟子たちにはっきりと述べます。ペトロの抱くメシア像にはまったく似合わないので、彼はイエスを諫めます。

イエスは断固としてペトロの諫言を拒絶し、ペトロはサタンに利用されていることを明確にします。これは神の考えではなく人間の考えです。ペトロはイエスについてもっとたくさんのことを学ばなければなりません。

イエスはそれから群衆に、彼の弟子であるということが何を意味するのかを説明します。イエスは十字架を担うというイメージを用います。それは人々の心に生々しい、恐ろしい映像を呼び起こしたことでしょう。十字架の宣告を受けた男が、打たれて血を流し、この屈辱的な、そして痛ましい死を受けのために通りをよるめき歩く様子を、多くの人が目にしていただろうと思われま

イエスの言葉は最初の弟子たちへの警告です。もし自分について来たいと望むなら、苦しみが伴うので覚悟をしなさいと。弟子たちの内のあるものは肉体的に十字架を経験しました。今日でも、福音

のために命を捧げる人がいます。私たちにとって、神のみ旨へ完全に献身するため、命をも捧げる覚悟を持つということは、イエスに従う者一人一人に課せられる毎日の挑戦なのです。

Meditatio …黙想する

あなたがイエスは誰であると信じているでしょうか、良く考えてみましょう。私たちはペトロのように、時としてイエスより良く知っていると考えた罪を犯していることはないでしょうか。

何故イエスについて行くのかをよく考えてみましょう。イエスについて行くことが何らかの意味で犠牲や苦しみを伴うときに、その理由を思い出すことは助けになるでしょうか。

イエスは「日々の十字架を担うこと」と「イエスと福音のために命を失うこと」について話しています。このことはあなたにとって何を意味するでしょうか。イエスはキリスト者として生きることを助けるために、聖霊を私たちに送ってくださっていることを思い出しましょう。

Oratio …祈る

詩編 116 編は救いを喜ぶ大きな叫びです。詩編作者は圧迫され、不安であっても「私は信じる」と言っています (10、11 節)。神とあなたの関係について考えてみましょう。これらの言葉を用いて、いま神をほめたたえることができるでしょうか。

Contemplatio …観想する

イザヤ 50 章 5～9 節は、「苦しむ僕の歌」のひとつとしてしばしば言及されます。そして一般的にキリストの苦しみについての預言として解釈されています (イザヤ 53 章 12 節も参照)。これらの言葉を十分意識しているはずのイエスは、苦しみが神への従順を阻むことをゆるしません。

ヤコブ 2 章 14～18 節は、イエスへの本当の信仰は、言葉だけではなく私たちの行動の中に自然にいつも表れるだろうと述べています。信仰は自己犠牲と他人への実践的な愛へと流れ出ていくものです。